

谷中五重塔の礎石だけが残る跡地で、映画への思いを語る船橋監督—東京都台東区谷中で



作家幸田露伴の名作「五重塔」のモデルにもなった東京・谷中の五重塔が焼失して半世紀余。地元で再建運動が進む中、塔をテーマにした映画「谷中暮色」が誕生した。二月のベルリン国際映画祭で招待作品として初公開され、十日には無料の凱旋上映会が谷中で行われる。
(したまち支局 丹治早智子)

谷中五重塔 映画で“再建”

谷中五重塔は、谷中霊園内にある天王寺(当時は感心寺)が江戸時代の一六四四年に創建。一七七二年の江戸の大火で一度は焼失したが、九一年に再建。その際の宮大工を中心に描いたのが、露伴の「五重塔」だ。「江戸四塔」とあがめられ戦火も免れたが、一九五七年七月六日、放火心中で焼失。今は礎石だけが残る。映画の監督・脚本は、大阪出身で東京大学を卒業後に渡米し、

ベルリン招待作品、11日上映会

ニューヨークの大学で「ニューヨークの大学で映画を学んだ船橋淳監(監督)」。前作はオタギリジョーさん主演映画「ビッグ・リバー」。二〇〇七年十月、約十年ぶりに帰国した際、「都市計画が完全に崩れさった東京で、ここだけ独特な時間が流れている」と谷中の魅力に引かれ、住人になっ

た。さらに、町の人々と接するうち、かつてここに五重塔があり、

再建を切望する声が多いことを知った。「谷中の過去・現在・未来をセミドキュメンタリーで撮ってみたい」と思うようになった。

「谷中暮色」はドキュメンタリーと現代劇、「五重塔」の時代劇を組み合わせた作品で、シンボルを奪われた町の喪失感を独特の映像詩で描いた。上映時間百二十九分。郷土史家、住職、墓守、江

戸大工など地元住民も多数出演し、五重塔の記憶を振り返る。「本郷と上野の台地に挟まれた谷中。その谷の中をのぞくことによって東京の歴史が見えてくる」と船橋監督。



ベルリン国際映画祭では「Deep in the Valley」という英字タイトルで上映され、白黒のエキゾチックな映像美が評判を呼んだ。上映会は午後六時半—八時四十五分、谷中コミュニティーセンター(台東区谷中五の六の五)。問い合わせは、BIG RIVER FILMS 電話03(6821)3445へ。

一九五七年七月、放火心中の巻き添えで炎上する谷中五重塔。「谷中暮色」の一場面から

焼失から半世紀余 住民も出演、記憶たどる